

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100513		
法人名	有限会社オオキタ・コーポレーション		
事業所名	グループホーム 夢咲園		
所在地	岡山市南区浦安西町25-5		
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100513-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24 年 8 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の目標は、「一人ひとりの個性や思いを認め合い大切に。」とし、それぞれの生活リズムで、その人らしく過ごせる居心地のいい環境作りを心掛けています。月行事では外食に出掛けたり、衣裳を着てカラオケ大会を楽しまれたり、と気分転換をはかり意欲の向上に繋がるような企画もしています。季節の行事では、ご利用者様と職員と一緒に準備したり、ご希望をお尋ねし日常生活と一緒に作り上げていくよう努めさせていただいています。共に、喜び、共に生き心やすらぐ「癒しの我が家」を目指して、寄り添いのケアを実践しています。前回、ステップアップとして挙げさせていただいた機能低下を防ぐ取り組みについては、現在廊下を利用した歩行練習を、生活リハビリとして取り入れて実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回事業所を訪問し1日を過ごした中で1番に感じたのは”居心地の良さ”である。木目調を基本とした内装、清潔感のあるフロア、ウッドデッキに続く大きな窓からは田畑の緑を見渡せる環境等もその要因ではあるが、何といても利用者の訪問者を受け入れてくれる優しさ、職員のさりげないフォローが居心地の良さに繋がっていると思う。施設長は職員に自分が認知症になったらこういう風に生活したいと自分の身に置き換えて想像し、日々の支援を行うよう職員に伝え、実現に向けて努力している。訪問当日には職員の息子さん(夏休みボランティアで利用者と一緒にフロアで過ごされていた。話をしたり、作業を手伝ったりしている姿がとても自然でほほえましく感じた。また、職員の子供さんが利用者が洗濯板など使っていた頃の話聞きに訪れたこともあり、利用者はとても生き生きと教えてくれていたとのこと。こういう触れ合いは本当に大切だなと実感し、色々な所で実現できるように伝えていきたいと思った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての事業所の理念を職員全員に認識させている。日頃から職員間でサービスの提供について話し合い、理念がケアに反映されているか確認をしている。	『ひとりひとりの個性や思いを認め合い、大切にする』という今年の目標を職員全員で認識し、利用者の思いを理解し、ケアに活かすよう努めている。自分が認知症になったら、こういう風に生活したいという思いが実現できるようにしたいという管理者の思いを強く感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームでは定期的にボランティアの方による読み聞かせの会や踊りの会などを開催している。地域の中学生の職場体験の受け入れも検討しており、交流を深めてふれあう機会をふやしたい。	夏祭り等の時には回覧板でお知らせし、地域の方にも参加して頂いたり、職員の家族総出で準備を手伝う等たくさんの方が関わっている。町内の行事にもできるだけ参加している。また、読み聞かせの会や日本舞踊、ことみ会など積極的にボランティアに声をかけ、受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	四季折々の行事に近隣の地域の方々や多くのボランティアの方々にご参加頂き、ホームの様子をより知って頂くように努めている。事業所で行なっている認知症の方との関わり方や援助の方法の理解を頂く度、地域の方々の訪問が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し、1つ1つ積み上げていくようにしている。事業所が現在行っている具体的な取り組みについて内容を報告し、意見をもらうようにしている。	2ヶ月に1回、定期的開催している。利用者の日常生活など言葉だけでは伝えにくい部分は写真やスライドで報告するなど工夫している。家族より認知症の進行予防のため、洗濯物干しなど家事を本人と一緒にしてほしいという意見があるなど、意見交換ができる場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護法による保護申請書の手続きの機会等に市町村担当者へ、利用者の生活状況やニーズを伝えている。	ふれあいセンターが近いこともあり、月1回は手続き等を含め訪問し、事業所の現状報告をしている。地域包括支援センターには運営推進会議の参加を呼びかけ、情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員、社内研修で「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに指導し理解を求めている。勉強会で全職員に高齢者の権利擁護や身体拘束について話し合い、職員の共有認識を図っている。	身体拘束について新人研修や基礎研修を定期的に行い、意識して支援するよう指導している。離施設があったときもカンファレンスにて全員で話し合っている。家族は安全面から施錠することを求めたが、話し合いの結果、職員が少ない時間帯のみ施錠することに決まった。身体拘束ゼロへの取り組みの意識を感じた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には「高齢者虐待防止法」をもとに個別で指導し理解を求めている。社内研修や勉強会で全職員に高齢者虐待について話し合い、職員の共有認識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前々年度になるが運営推進会議にて司法書士の方による成年後見制度についての説明を受けた。当事業所にも後見人制度を利用されている利用者の方がおられるので、他ホーム間での情報交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明を行い、利用者や家族の方の疑問等には納得頂けるまで説明を行っている。特に、利用料金や重度化した時の対応方針については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には、積極的に声を掛けさせて頂き、ご意見・ご要望を話して頂ける様な雰囲気作りを行っている。ご意見・ご要望に対しては、早急に検討し可能な限り対応する様にしている。	面会時に、職員から話しかける事で、意見や要望を話して頂けるよう雰囲気作りに努めている。面会に来れない家族には電話にて往診後の報告や日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いている。	フロアにはウェブカメラが設置されており、家族はパスワードを入れるといつでもネットで利用者の様子を見る事ができる。家族の安心感にもつながる大切な取り組みだと思う。他の事業所にも伝えて頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度経営者を交えて全事業所合同会議を行っている。ユニットカンファレンス、勉強会をそれぞれ月一回行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や要望を聞く様にしている。	日頃から職員間のコミュニケーションを大切にしている。個々の職員の意見や提案は各ユニットの主任から管理者に伝えられる。職員からはケアに関する積極的な意見が多く、きちんと話し合い、回答を出すようにしている。	職員の家族が夏祭りの準備を手伝ったり、夏休みに事業所に来て利用者とお話をしたりするなど、家族ぐるみで関わる事を楽しんでいる。こうした取り組みによりお互いに得るものが大きいと感じる。今後も継続してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ研修参加を促し、向上心を持って働ける様に働きかけている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握する様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、各ユニットの主任や先輩に付き、新人トレーニングノートを活用し丁寧な指導を実施している。職員個々のレベルに合わせて、社内研修に参加する様に働き掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修を通して自施設の見直しや振り返りにつなげている。お互いに良い刺激となり、意見、アドバイスをケアに取り入れ、生かすことでサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が困っている事、望んでいる事などを把握する為にその人をよく見て、その人を知る努力をしている。職員が安心して受け入れられるようなコミュニケーションに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何を求めているのかをゆっくりと話し、事業所として対応可能な事は速やかに実施する様にしている。対応が難しい事については、双方の妥協点を探し、納得出来るまで話をする様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意見、要望を第一に優先する事は大事だと思われるが、ご家族の協力を中心に協力者の支援がどの程度得られるかを見極め、本人と納得出来るまで、話を行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩という考え方を職員が共有し、困った時には良き相談相手となってもらったり、共に支え合い感謝し合える関係作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を積極的に促し、本人の気持ちや職員の考え方をお伝えし、職員とご家族と一緒に本人を支えていく体制を築いているようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月には、ご家族と一緒に過ごして頂ける様に働き掛けている。ご家族や知人に年賀状を書いて頂き、つながりを大切にしている。知人の面会時には、又来訪して頂ける様に働き掛けている。ホームの行事に多々参加頂いている。	入居時に家族にいつでも面会に来て、行きたい所などどんどんお連れして下さいと協力をお願いしている。駐車場も広く、日曜日には何組もの家族が面会に来られ、家族同士の馴染みの関係もできている。家族の協力もあり、自宅に帰ったり、お墓参りに行く方も多い。年賀状なども職員が手伝い、出すようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を把握し、個性を生かしながら、孤立する事のない様に支援している。利用者同士の関係が円滑になるような場面作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了された方やご家族からの相談には、丁寧に対応させて頂き、出来る限りの情報の提供を行う様にしている。他の事業所に移られてからも、質問等に対しては、注意点や解決の手段の情報提供を継続的に行う様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞く以外に、ご家族からも情報を収集し、本人の思いや暮らしの希望を把握する様に努力している。職員一同が、話を聞く機会を意識的に持つ様にしている。職員一同が、話しを聞く機会を意識的に持つ様にしている。	利用者の不安そうな表情やいつもと違う行動などについて申し送り職員に伝えている。その時にすぐに原因が分かることは少ないが、職員がいつも気にとめながら支援を行って行く中で、分かってくることも多い。利用者の思いを理解し、生き生きと生活ができる支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に知りえた生活歴をもとに、本人やご家族から、さらに情報を収集する様にしている。生活歴の内容が充実すれば、今本人が何に困っているか、不安を抱いているかを把握しやすくなる事を職員が認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムがそれぞれ違う事を職員は理解し、画一的なサービスの提供にならない様にと考えている。生活状態をしっかりと観察し、本人の身体的・精神的能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって困った問題が発生した時には、本人から話を聞き、行動を観察し速やかにケアカンファレンスを行い、立てた援助項目を実行し期間を決めてモニタリングを行う様になっている。必要に応じて、ご家族に報告し、ご意見を頂いている。	3か月毎にアセスメントし、担当職員を中心にカンファレンスにて意見交換を行っている。本人の状態に合わせて主治医にも意見を聞き、内服や医療処置についてもケアプランに反映している。ケアプランは1冊のファイルにまとめ、すぐに確認できるよう整理されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、排尿量・水分摂取量など、職員に必要性について理解を求め、実践している。利用者の日頃と違う心身状態については、ケア記録に記載し、職員間の情報の共有を徹底している。必要に応じて、生活援助計画の見直しを行い、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の受診に関しては、ご家族による対応を基本としているが、ご家族の状況に合わせて、受診・通院の援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会の方や福祉事務所職員の方に参加して頂き、情報の提供をして頂いたり、助言を頂く様になっている。事業所外での地域資源を大いに活用出来る様に積極的に取り組む予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族へ入居契約時にかかりつけ医の往診が可能か、夜間でも連絡がとれるかを確認し、可能であれば継続してもらっている。現在の利用者は、全員協力医療機関となっている。	入居時に本人や家族に希望するかかりつけ医を選択してもらっている。協力医療機関より週1回の往診、看護師も配置し健康管理を行っている。必要に応じて歯科の往診も依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃から利用者の状態の変化に気を配り、記録に残すようにしている。看護職が勤務の時には、最近の健康状態を詳細に伝え対応について協議している。必要に応じて主治医へ報告し、指示頂く様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、2・3日おきにお見舞いに行き、状態の把握に努める様にしている。担当医やご家族より回復状況等情報交換を行い、早期の退院支援に結びつける様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を踏まえ、主治医・職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられる様に、随時意志を確認しながら取り組んでいく方針である。可能な限りグループホームでの生活が継続できるよう、その都度職員全体で意識を共有するようにしている。	入所時に家族に説明を行うが、随時状況を説明し、本人や家族の意向を確認しながら行われている。看取りが行われるときにはカンファレンスを行い、職員全員で方針を共有し、意識の統一を図っている。また、かかりつけ医も毎日往診に来てくれるなど、協力体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。救急搬送についても、勉強会等で周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者とともに避難訓練を行っている。内1回は消防署の協力のもと、注意事項について指導を受けている。運営推進会議の時に町内会の方に協力を求めている。防災対策のマニュアルを作成するとともに全職員に意識強化を図っている。	年2回、避難訓練を実施している。民生委員の方が参加してくれたり、町内の防災訓練に参加するなど地域との協力体制もできつつある。備蓄食料のストックや発電機能付ラジオの用意など意識の高さを感じる。防災対策マニュアルも作成している。	水害時には2階への避難も考えておられるが、普段職員が使用している階段なので、幅が狭く感じる。避難訓練の際、2階への移動を含めた移動訓練を試みてはどうだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助を行う前には、必ず声かけを行い、本人の意思を確認してから行う様に心がけている。本人の気持ちを考え、さりげないケアを行う様に気をつけている。	本人の気持ちを考え、1人1人に合った声かけを行っている。スタッフ同士で話す時も利用者が驚かないように声の大きさなども注意している。接遇面なども内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者にあった言葉かけを行う様にし、意思表示が難しい方には、言葉以外の表現を理解する様に心がけている。利用者自身が意思決定出来る機会(入浴・着替え等)を出来る限り提供する様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、出来る限り一人ひとりの生活リズムを大切にする様にしている。入浴や食事の時間等は、職員の都合で決めている事があるが、要望があればご本人の希望にそって支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣を尊重し、化粧品等は以前から使用していた物を用意する様にしている。利用者の好みやこだわりを大切にし、個性が発揮出来るよう支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から好みを伺い、メニューに取り入れる様に給食業者に依頼している。可能な利用者の方には準備、片付けに参加していただけるようにしている。利用者と職員が出来る限り一緒に食事をとる様にしている。	給食業者に献立や食材配達を依頼し、専門の職員が調理を行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしており、食事中は後片付けをせず、会話をしながらゆったりと楽しめる雰囲気作りをしている。定期的にパン屋さんが来所しており、おやつや朝食のときに自分で選んだパンを食べるのも楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量を把握している。個別に主治医より水分量をチェックする様に指示があった利用者については、確実にやっている。それぞれの方にあつた食事の形態を提供する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、毎食後行う事としている。自分で出来る方には声かけをし見守り、出来ない方に対しては、一人ひとりの能力に合わせて口腔内の清潔保持を行っている。歯科往診にて口腔内を常に良い状態に保てる様配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、その人に応じた定期誘導を行っている。本人の状態にあった紙パンツ・パットを検討し、使用している。排泄動作においては、さりげない言葉かけを行いながら自力で出来る様見守っている。	排泄パターンを把握し、個々の状態にあった方法で誘導している。日中はできるだけトイレに行き、座ってもらうようにしている。自然排便を促すため、プルーンや牛乳、ヤクルトなど摂取してもらうよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、トイレにて排便を促す様にしている。便秘の方には牛乳・オリゴ糖やプルーンなど本人にあった物を用意している。勉強会等で、水分補給の重要性について職員同士で理解を深める様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に入浴されるかを聞き、嫌がる方には無理強いをしない様にしている。入浴を嫌がる方には、言葉掛けの仕方や、なじみの関係が出来ている職員が行う等工夫している。時間帯については、今までの習慣や希望を聞き入れるまでは至っていない。	利用者の希望に合わせて、週2～3回の入浴支援を行っている。一番風呂が好きな人、ぬるめのお湯加減がいい人、入浴剤を入れる人など本人が気持ちよく入浴できるよう配慮している。着替える服を選んでもらったり、メイクを手伝うなどそれぞれに応じた身だしなみも手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促す様にしている。一人ひとりの就寝パターンを把握し、夕方以降の生活環境を整える様にしている。寝付けない時には、お部屋の温度を調節してみたり好みの飲み物等を出すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、服薬されるまでを確認している。薬の変更があった時は、以前と比べて症状が改善に向かっているか、新たな問題が起きていないか要観察し記録に残して、主治医に報告する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴から、役割を見つけ家事への参加や趣味の提供を行っている。毎月の行事に対して企画の提案や開催までの過程の中で、作業等の協力を求めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望をお聞きして、月に1回のペースで外出が出来る様こころがけている。一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にでかける支援は行えていない。ご家族の方には、積極的に一緒に外出して頂ける様に働きかけている。	月1回のドライブや買い物の希望があればスーパーに出かけている。また家族の協力も得ながら、季節毎の外出行事を企画したり、同グループの事業所の行事に参加したりもしている。	個々の外出希望にはなかなか応えられていないと伺いました。確かにいつも希望を聞くというのは困難だと思いますが、お誕生日など本人の希望を聞く日を設けるなど試してみてもどうでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人とご家族に相談し、少額を手元を持って頂いている方がおられる。買い物に出かけられた際に自分で払って頂く様にしている。本人の不安や満足の為に手元で所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ご家族へ電話をかけ会話を楽しんで頂く様にしている。電話をされる時には、椅子を用意しゆっくりと話が出来る様な配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭や感染予防の為にホール・居室と換気を頻回に行い、さわやかな室温に心がけている。温度・湿度計で室温を確認したり、利用者に声を掛けて温度の調節を行っている。ホール・居室は明るく、季節の花を絶やさぬようにしている。	ホールは広々としたスペースで適度な天窓から差し込む光が木目の床や壁面の板張りの節目が癒しを感じ居心地良く過ごす事が出来、換気や室温にも気遣いがされている。利用者が使用する洗面所は上下機能やシャワーがついており、利用しやすい。職員はゆったりと支援しており、居心地の良い空間作りを担っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるように、ソファや椅子を適度に配置している。一人ひとりにあった椅子に座り変えて頂きゆったりと過ごせるように工夫している。利用者同士の関係性に配慮した、席の配置を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人やご家族に家で使われていた家具を持ち込んで頂く様に説明している。馴染みの物を居室に置く事で、居心地の良い空間になるように環境を整えている。	本人が使用していた家具や写真、思い出の物が持ち込まれ、一人一人の居心地のよい空間作りを行っている。机に向かう習慣がある人にはどこにどういう風に配置したら、本人が安全で使いやすいかを状態に応じて検討し、できるだけ本人の習慣を継続できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が特定の場所(便所・風呂・居室)を認識しやすい様に環境の設備を行っている。混乱や行動の失敗が続く時には、その原因を分析し改善を図る様にしている。		